

## 2004（平成16）年度 在宅医療助成完了報告書

テーマ : 『在宅医療に従事する人材養成の支援』

申請者氏名 : 岡田孝弘

所属機関 : オカダ外科医院

役職 : 副院長

所属機関所在地 : 横浜市旭区中希望が丘111

提出年月日 : 平成17年9月8日

## 【はじめに】

横浜市西部地区の在宅医療の現場は、在宅医療管理を行う医師または往診に対応する医師（以下、在宅医）が少ないために、在宅医療を希望される患者に対して十分に対応できていない状況があります。その環境の中でも積極的に対応する何名かの医師はおり多種にわたる在宅患者の管理をしています。しかし、積極的に対応する在宅医が一人では、その医師の許容範囲を越えた時に在宅療養の継続が不可能となることもあります。困っている在宅医に対して良きアドバイスとサポートできる体制があれば、在宅医も余裕を持ち在宅管理体制を充実させ、介護者の負担の程度を確認しながら、患者を安定した状態で維持し、長期の在宅管理が行えるものと考えられます。在宅医が増えない原因の主たるものは、プライベートの時間の制限、365日24時間体制による心身的負担、医療コストの事などさまざまな問題があります。在宅医療の推進を行う上で必要なことは、在宅医療を行う医師同士の強力な連携体制、在宅医療に従事する各職種（看護師、介護スタッフ、ケアマネージャー、介護施設など）との綿密な連携体制が不可欠なのです。

そこで我々は、“医師会の枠を越えて”“行政区単位を越えて”、実際に在宅医療を行ない、真剣に積極的に行なおうとしている医師達を支援し、より良い在宅医療をどの患者にも提供できるようにと考え、平成15年6月に横浜市西部地区を中心として、在宅医療に従事する医師のネットワークを構築する目的で『在宅医ネットよこはま』を立ち上げました。

今回、平成16年度在宅医療助成勇美記念財団からの助成頂き『在宅医療に従事する人材養成の支援』を研究目的としてさらなる連携の強化を検討し活動してまいりましたので報告いたします。

## 【研究目的】

横浜市西部地区を中心とした、旭区、瀬谷区、泉区、戸塚区、保土ヶ谷区、緑区の在宅医をメンバーとして連携をとりつつ、在宅医療に従事する各職種（病院医師、病院看護師、ケースワーカー、訪問看護ステーション、施設看護師、介護スタッフ、ケアマネージャー、行政、地域ケアプラザ職員など）との連携の強化を行い、より良い在宅医療ができる環境を作る事を目的としました。

## 【研究の方法】

### ① 在宅医療関連の研究会の開催

平成 16 年 11 月 4 日 第 5 回研究会

テーマ：専門診療科における在宅医療の現状

整形外科医、皮膚科医、神経内科医、歯科医に専門診療科として在宅医療の現場でどのような診療をしているのかを発表頂き、シンポジウムの形で討論を行いました。主治医と専門診療科医師が連携を強化することで街の中で総合病院的働きも可能となる事。何科の医師でも在宅医の協力体制が得られれば十分に在宅管理を行う事も可能である事をアピールしました。

平成 17 年 3 月 31 日 第 6 回研究会

テーマ：みんなで考えた胃瘻管理マニュアル

平成 16 年 6 月から病院医師、在宅医、病院看護師、訪問看護師の 60 名に協力頂き、街で生じている胃瘻に関する問題点を検討し、統一した一つのマニュアル『みんなで考えた胃瘻マニュアル』を作成しました。このマニュアルを用いて、どこでも同じ管理ができる事を期待して発表しました。

平成 17 年 6 月 21 日 第 7 回研究会

テーマ：在宅におけるリハビリテーションの現状と問題

整形外科医、訪問リハビリテーション師、回復期病院リハビリテーション師、ケアマネージャーに現状と問題点を浮き掘りにして頂き、理想的なリハビリテーションを考えました。訪問リハビリは病院の延長として漫然と機能訓練を行うのではなく、この人が在宅療養するために何が必要かを常に考えて計画を立てる事が必要である。そして、必要な時期に必要な分の在宅リハビリを行い、後に在宅リハビリから施設リハビリに移行させられる事を目標として患者をリードする。そのためにはケアマネージャーとの連携を強化し寝たきり患者を作らないようにみんなで考える事にしました。

### ② 『みんなで考えた胃瘻管理マニュアル（A4版59頁）』作成関連

医療依存度の高い患者が在宅療養をすることが多くなっている現在、胃瘻管理を必要とする患者も増えています。しかし、胃瘻における造設の適応や、胃瘻管理指導については医療機関によって異なり統一性がないために胃瘻を取り扱う家族や現場のスタッフの間で混乱が生じています。そこで、造設している病院の医師、退院時指導を行う看護師、在宅で主治医となる在宅医、ケアを指導に当たる訪問看護師に 60 名に協力頂き、話し合いを繰り返し、1冊のマニュアルを作成しました。

===研究会の実施状況=== (開催場所:横浜旭中央総合病院 会議室)

平成16年10月25日 全体会  
平成16年11月22日 病院医師・在宅医師部会  
平成16年11月29日 看護師部会  
平成16年12月21日 看護師部会  
平成17年 1月25日 看護師部会  
平成17年 3月14日 病院医師・在宅医部会  
平成17年 3月16日 全体会  
平成17年 3月31日 第6回 在宅医ネット研究会  
平成17年 7月26日 『みんなで考えた胃瘻管理マニュアル』発行  
平成17年 7月26日 第1回 胃瘻研究会  
平成17年 9月 6日 第2回 胃瘻研究会

完成したマニュアルは在宅医療に従事する人を対象に配布。啓蒙活動として胃瘻研究会を開催しマニュアルについて説明し質疑応答に対応しています。

### ③ インターネットの関連

ホームページ充実のためにホームページを作り替えました。、サーバーも新規契約して管理しています。メーリングリストも充実させよりスムーズに動くように改良しました。

#### ホームページの内容

在宅医ネットよこはまの紹介  
在宅医ネットよこはまの主旨説明  
活動記録  
メンバーについて  
入会手続き  
質問コーナー (準備中)  
患者紹介について (準備中)  
会員専用ページ

会員専用メーリングリスト メーリングリストを用いて情報提供しています。

専門診療科の医師への質問  
専門診療科医への往診の依頼  
保険診療点数の算定方法の質問  
在宅医療に必要な医療材料や物品の“ばら売り”の実現  
意見交換  
休診日にける代診依頼  
距離的問題や専門外の患者への往診依頼  
など

#### ④ 第7回 日本在宅医学会にて発表

平成17年2月12日（仙台）にポスターセッションにて発表致しました。

『在宅医療における診診連携体制の必要性』と題して代表世話人の岡田孝弘が発表しました。

在宅医同士の診診連携体制を構築することで、医師も患者もより良い環境の中で在宅療養する事ができること。街において専門診療科が集まると総合病院的働きも実現できる。連携体制を強化して充実させる事によって長期に安定した状態を維持させた在宅療養を提供できる。と発表しました。

#### 【結果】

##### ①在宅医療関連の研究会の開催

参加者数は第5回83名、第6回は医師のみ60名、第7回は156名で研究会を開催する度に参加者数は増え横浜市西部地区の在宅医療の関心は医師だけでなく在宅医療に携わる人達の間で確実に高まってきています。年3回予定している研究会は今後も継続させて開催し、在宅医療の行いやすい環境を作っていけるように検討しています。

##### ②『みんなで考えた胃瘻管理マニュアル』の啓蒙活動としては胃瘻研究会を2回開催し胃瘻の実際について説明を行い質疑応答に対応しています。会場で質問しにくい細かい質問や疑問点に対しては、事務局で対応できる環境を整えています。研究会の対象は病院医師、在宅医、訪問看護ステーション、病院看護師、施設看護師、施設介護スタッフ、ケアマネジャー、行政、地域ケアプラザなどの各職種としています。

研究会の参加者にはマニュアルを配布しています。第1回は台風直撃の中、160名の参加がありました。その後、参加できなかった方々の要望があり急遽、第2回を開催しました。第2回の参加者は189名でした。研究会の後から事務局に胃瘻関係の問う合わせも増えており、多くの胃瘻に関わる方々の関心を集中させることができ、また、病院と地域とが一体になることができたと思います。施設への啓蒙活動は難渋していましたが横浜市内の特別養護老人ホーム、老人保険施設、グループホームの施設長会議の協力を得て171施設の施設長の方々に配布することができました。今後も継続して研究会を開催し啓蒙活動を行っていく予定です。

##### ③インターネットの充実により、スムーズに在宅医同士で各種情報交換を行える環境ができてきています。診療上困った事の相談、専門診療科の医師へ質問や往診依頼、距離的問題や専門外の患者紹介、診療報酬の算定方法などについてはかなり充実した情報交換ができています。現在、横浜市西部地区以外の医師の入会がありますが、メーリングリストの環境下ではいつでも質問できるために活用されています。

- ④学会発表終了後は興味を持たれた会場の方々と意見交換を行いました。このネットワークは横浜市に限定されるものでなく、どの地域においても発起人が存在すれば何時でも構築できるネットワークであることをアピールしました。学会終了後も事務局に会の運営に関する問い合わせの連絡が入る事もありました。

#### 【まとめ】

会員は横浜市西部地域を中心として旭区、緑区、瀬谷区、泉区、戸塚区、保土ヶ谷区を対象にしておりましたが他区からの入会希望もあり横浜全域に広まる勢いです。ネットメンバーは現在32名ですが、各医師の専門診療科目は内科（神経内科、血液腫瘍内科、消化器内科、腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科）、外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科と多種に渡っています。研究会開催のたびに会員が増加している状況ですので、今後、この『在宅医ネットよこはま』が発展することにより、多くの在宅医、これから在宅医療を考えている医師も、みんなで安心して在宅医療を行える環境を作ることができるものと思っています。この活動を続ける事で地域医療の発展につながり、より良い在宅医療をどの患者にも提供できるようになるものと考えています。

この研究が、この16年度に急成長できたことは 財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による支援を頂いたことによります。心から深く感謝申し上げます。